

「水循環都市東京宣言」について

2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会にむけ、江戸の歴史資産である玉川上水を活かし、歴史と品格を備えた世界一の水循環都市を実現するため、五大学が連携してシンポジウムを連続開催した。

東京は、多摩川扇状地の上に火山灰が堆積した武蔵野台地の東端と、利根川・荒川の下流域との接点に位置し、16 世紀末から 17 世紀にかけて利根川東遷・荒川西遷、江戸湊、玉川上水などが実現され、18 世紀には人口百万人を超える世界最大の水都となった。

明治以降、西欧に倣い近代の治水、上水道・下水道事業を推進した。しかし、戦後の高度成長期に急速な都市域の拡大と産業構造の転換に直面し、水資源の逼迫、都市水害の増大、深刻な水質汚濁、地下水位の低下と地盤沈下などの社会問題に直面した。

1964 年オリンピック東京大会を契機として、利根川や荒川から東京への導水、東京中の水路の暗渠化、日本橋川を覆い隠す高速道路の建設などが行われ、現在の東京の水循環と水辺環境の原点が創出された。その結果、人々の意識は水から遠ざかることとなった。

現在、日本は人口減少と高齢化、未曾有の大規模災害への備え、気候変動など新たな課題に直面しており、水循環の分野においても大きな転換期を迎え、2014 年に水循環基本法が公布され、2015 年 7 月 10 日に「水循環基本計画」が閣議決定された。

また、東京都においては、「世界一の都市・東京」を目指して長期ビジョンが発表され、東京の健全な水循環の回復を図るため、2015 年度中に水マスタープランを策定することが発表されている。

この機に、「水循環都市東京シンポジウム」の議論を踏まえ、別紙のとおり「水循環都市東京宣言」を発表する。